

相 双 「食」と「ふるさと」 新生運動ニュース

No.19 2018年9月
福島県相双農林事務所

メニュー

- ◆第69回全国植樹祭を開催しました！
- ◆葛尾村から胡蝶蘭の出荷が始まりました
- ◆JA福島さくらふたば地区本部のタマネギ出荷体制が整いました
- ◆新規就農・企業参入推進で、相双地域の農業復活を目指します！
- ◆「相双地方GAP研修会」を開催しました
- ◆復興基盤総合整備事業 右田・海老地区が県優良工事を受賞しました！
- ◆相双遊学ツアーで地産地消！料理体験を行いました
- ◆相双地域での地域産業6次化の推進について
- ◆「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンの開催について
- ◆第3回「おいしい ふくしま いただきます！キャンペーン」のお知らせ

第69回全国植樹祭を開催しました！

平成30年6月10日（日）、天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、「第69回全国植樹祭」を開催しました。

当日は、朝から雨模様でしたが、式典開始時には天候も回復し、参加者をはじめ、多くのご支援、ご協力をいただいた皆様のおかげで、すべての行事が滞りなく進み、無事に幕を閉じることができました。

この大会を通して、復興に向けて力強く歩み続ける県民の姿や国内外から寄せられた温かいご支援に対する感謝の気持ち、そして、未来につなぐ「希望の森林づくり」への思いを広く発信することができました。

全国植樹祭の開催にあたり、ご支援、ご協力をいただいた皆様に感謝するとともに、本大会の成功に思いを寄せていただいた方々にも、感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



「海岸防災林となる会場で植樹する参加者」



「皇居の工ノキ苗の植樹を御覧になる天皇皇后両陛下」



「森林づくりのメッセージを発表する南相馬市の大甕緑の少年団員」



「大会テーマソング「福ある島」を大合唱したグランドフィナーレ」

葛尾村から胡蝶蘭の出荷が始まりました

葛尾村では農業者3名と葛尾村ゆかりの企業1社が合同会社を設立し、福島再生加速化交付金を活用して胡蝶蘭の栽培施設等を整備しました。胡蝶蘭の栽培には温度管理が重要で、年間を通じて一定の温度を維持する必要があるため、冷・暖房の空調設備を完備しています。必要な電力の一部は敷地内に設置したソーラー発電により供給し、再生可能エネルギーを利用した栽培を行っています。

栽培施設には、今年の1月から苗を導入して大切に育ててきました。そして、7月21日に初出荷式典を開催し、首都圏に向けた出荷が始まりました。この胡蝶蘭は、葛尾村復興のシンボル、純白の花をイメージしたオリジナル・ブランド「hope white(ホープ ホワイト)」と命名され、月間4,000株、年間48,000株の周年生産を行います。また、首都圏以外にも福島、郡山等の地元市場へも出荷されており、村の復興交流館（あぜりあ）でも展示販売を行っています。 (双葉農業普及所)



「胡蝶蘭栽培施設とソーラーパネル」



「出荷を待つ胡蝶蘭」

J A福島さくらふたば地区本部のタマネギ出荷体制が整いました

震災前の双葉郡はカボチャやブロッコリー等の野菜産地でしたが、帰還して営農再開する際に土地利用型の新規品目としてタマネギを推進してきました。平成27年9月に1戸から始まったタマネギ生産でしたが、平成28年度の「ふくしまからはじめよう。攻めの農業技術革新事業（現「ふくしまアグリイノベーション実証事業）」による実証ほの設置や、「園芸産地復興計画」の推進品目として関係機関団体が一丸となって進めてきた結果、平成30年夏の出荷段階では21戸で5.3haまで拡大してきました。

平成28年度から県内大手食品加工メーカーへ業務用として販売してきましたが、平成29年度からいわき市の青果市場への出荷が始まり、今年度は大熊町から震災後初めてのタマネギによる農産物販売が実施されました。大規模な土地利用型経営モデルを目指すためには、は種から移植・防除・収穫・乾燥まで一貫した機械化体系が必要ですが、選別調製の省力化は個別では取り組みにくいことから、関係機関の協力を得てJA福島さくらふたば地区として共同の選別調製体制を整えました。これによって全ての作業が機械化され、より一層の規模拡大が期待されます。 (双葉農業普及所)



「設置されたタマネギの選別調製機（富岡町）」



「双葉地方農業普及推進懇談会での現地視察状況」

新規就農・企業参入推進で、相双地域の農業復活を目指します！

相双農林事務所では、平成29年12月に「相双地域新規就農・企業参入推進検討会議」を立ち上げ、市町村・JA等と連携し、新規就農者の確保・企業参入の推進に力強く動き出しました。



「相双地域新規就農・企業参入推進検討会議」

これまで、認定農業者等の協力を得て、就農希望者が安心して農業技術を習得したり、生活環境に慣れていただくための実践的な研修体制を整えるとともに、就農情報としての住宅情報、雇用企業情報など、新規就農者の受入体制の整備を進めてきました。

さらに今年度は、相双地域の農業の魅力を広くPRするためWeb情報を活用した情報発信、首都圏等での就農イベントへの参画、バスツアーの開催など、相双地域への関心を高める取組を進めることとしています。

相双地域の営農再開と持続的な農業の発展に向け、一人でも多くの意欲ある人材を迎えるため、「攻め！」をキーワードに関係機関一体となり活動していきます。
(農業振興普及部)

「相双地方GAP研修会」を開催しました

平成30年8月1日(水)にJAふくしま未来そうま地区本部相馬中村総合研修センター多目的ホールにて「相双地方GAP研修会」を開催しました。

県では、農産物の風評払拭とブランド力向上、消費者から信頼される産地づくりを進めるため、平成29年度よりGAP認証日本一を目指し取り組んでおり、今年度の研修会には38名の農業者と関係機関の担当者が参加しました。

最初の基調講演では、福島県環境保全農業課の遠藤芳美GAP推進員から「GAPの基礎と生産から流通まで」と題して、昨年度までイオンアグリ創造(株)で認証GAPの実務を経験してきた事例を踏まえて講演を行いました。

また、事例発表では、個別認証取得の取組として相双地方で初めてJGAP認証を取得した(株)グラン・ファーム代表取締役の後藤直之氏から、取得までの苦労や取得して良かったこと、さらに団体認証取得の取組として、ふくしま未来農業協同組合そうま地区、福島さくら農業協同組合ふたば地区本部より、それぞれ今年の活動内容の報告がありました。

現在、相双地方では、JGAP認証戸数は個別が3戸、団体認証が日本なしで4戸になっています。当事務所では今後とも、農産物の安全安心を推進し、ブランド力向上のため、農業者の皆さんのGAP認証を全力で支援していきます。
(農業振興普及部)



「研修会の様子」



「後藤直之氏による事例発表」

復興基盤総合整備事業 右田・海老地区が県優良工事を受賞しました！

平成 30 年 8 月 10 日（金）、今年度の県優良農林水産土木工事の発表が行われ、当事務所発注の復興基盤総合整備事業 右田・海老地区 2701 工事が、ほ場整備部門において優良工事を受賞しました。

この表彰は、技術水準の向上と安全な施工の確保を図ることを目的に、県が発注した工事の中から、出来ばえや現場の体制、創意工夫などで他の工事と比べ極めて優秀な工事を表彰するものです。

当工事は、東日本大震災による津波被災地におけるほ場整備工事において、微細ガレキの混入や水田の表土不足といった厳しい条件にもかかわらず、会社独自の工夫による施工管理や適切な品質管理に努めるとともに、丁寧な現場施工により優秀な現場を完成出来たことが評価されました。

今後も、地域の方々の声に耳を傾け、受注者とともに、地元の皆様に喜んでもらえるような工事を進めてまいります。

工事概要：区画整理工 A=108.1ha

工事場所：南相馬市鹿島区北右田地内外

受賞業者：滝谷建設工業株式会社

（農村整備部）



「ほ場整備工事完成後」



「営農再開状況」

相双遊学ツアーで地産地消！料理体験を行いました

本ツアーは、相双地域の小学校 5・6 年生を対象に地場産業や伝統文化体験を通して地域への愛着を深めてもらうことを目的に平成 27 年度から実施しており、今年度は、いわき市の「いわき海浜自然の家」において 8 月 1 日から 2 日にかけて 47 名が参加し、開催しました。

相双農林事務所では、2 日目の昼食で地域食材を使った料理を通して県産食材の魅力を発信しようと「地産地消！料理体験」と題して野外炊飯を行い、平成 27 年度の「相双地産地消料理コンテスト」で稲荷田有貴君、妙子さん親子（新地町）が考案した「かぼちゃすいとん汁」を作りました。

そのほか、海辺の生物観察や夕飯のシーフードカレーを全員で作ったほか、夏の陽光をたっぷり浴びながら久之浜海岸をサイクリングしたり、大堀相馬焼の陶芸を行うなど、盛りだくさんのメニューを体験していました。

参加した小学生からは「郷土の食材を使用した料理を通じて地域の産業などに興味をもった。」「カレーや、すいとん汁づくりが楽しかった。また、この様な機会があったら参加したい。」などの感想がありました。

（企画部）



「カボチャすいとん作りの様子」



「カボチャすいとん汁の試食の様子」

「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンの開催について

相双農林事務所では、6月23日（土）にヨークベニマル原町西店、7月7日（日）には常磐自動車道SA「セデッテかしま」において、県産農林水産物の風評払拭と販売促進を目的とした「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを開催しました。

これらのキャンペーンでは、県産農林水産物の安全性やおいしさをPRするため、安全・安心リーフレットの配布や、抽選で様々な地元産農林水産物をプレゼントしました。

ヨークベニマル原町西店では、南相馬市産のきゅうりやミニトマト、相馬市産のブロッコリーなど700点、セデッテかしまでは、相馬市産のお米「天のつぶ」を300点用意しましたが、両キャンペーンとも多くの方々に参加していただき、抽選を待つ長い列ができるなど、盛況のうちに終わることができました。

また、来場した方へのアンケートも行いました。その結果、放射性物質検査に対する関心が高く、農林水産物を購入する際には「安全性」「産地」「価格」を重視していることがわかり、約9割の方が福島県産農林水産物を購入したいと回答していました。

今年度は、9月と10月にもキャンペーンを開催する予定です。詳しくは、ホームページ等でお知らせしますので、多くの方のご来場をお待ちしております。（企画部）

<ヨークベニマル原町西店>



「たくさんのお客様に参加していただきました」



「プレゼントした南相馬市や相馬市産野菜」

<セデッテかしま>



「先着 300 名に相馬市産『天のつぶ』をプレゼント」



「抽選でエコバック又は相双地産地消料理コンテスト入賞レシピ集をプレゼント」



相双地域での地域産業6次化の推進について

<そうそう・地域産業6次化推進会議について>

そうそう・地域産業6次化推進会議は、相双地域の12市町村、農業協同組合、漁業協同組合、商工会・商工会議所などで構成しており、相双農林事務所及び相双地方振興局が事務局を務めています。

当推進会議では、相双地域の地域産業6次化を推進するため、相双地域の農林漁業者や食品加工業者などが参加する「そうそう・6次化ネットワーク」の運営を行っており、ネットワーク会員向けに、会員同士の交流や研修の場を設ける交流会などを定期的を開催しています。

なお、ネットワーク会員は随時募集しています。

<そうそう・地域産業6次化推進会議を開催>

平成30年6月26日（火）、今年度の「そうそう・地域産業6次化推進会議」を道の駅南相馬で開催しました。

推進会議では、平成29年度の活動実績の報告と平成30年度の活動計画について審議し、今年度は、6次化の先進地視察研修と6次化商品の試食・求評会による交流活動の実施、年4回の6次化商品の販売機会の創出、事業者が抱える課題への適切なフォローアップなどに取り組んでいくこととしました。

また、南相馬市を中心に6次化支援に取り組んでいる株式会社ドリームゲートの澤田竜一氏から「6次化支援の現状、現場からの声や行政等に求められる役割について」と題し講話を受け、その後、澤田氏を含め推進会議構成員の取組状況や課題等を共有し、意見交換を行いました。

（企画部）



「推進会議の様子」



「澤田氏の講話の様子」

<地域産業6次化相談窓口について>

相双農林事務所では、地域産業6次化に関する相談窓口として、6次化相談カウンターを設置しています。

ほんの些細な相談でも構いませんので、お気軽にご相談ください。

【6次化相談カウンター】

福島県相双農林事務所 企画部内

担当：佐藤、小口

TEL：0244-26-1153

FAX：0244-26-1181



第3回「おいしい ふくしま いただきます! キャンペーン」のお知らせ

福島県では、消費者の皆様には福島県産農林水産物の魅力や安全性をPRするため、県産農林水産物のプレゼントや安全性のPR活動を行う「おいしい ふくしま いただきます! キャンペーン」を開催しています。

相双農林事務所では、平成30年9月29日(土)に浪江町で開催される『ふたばワールド2018 in なみえ』に出展し、今年度第3回目の「おいしい ふくしま いただきます! キャンペーン」を実施します!

日時：平成30年9月29日(土) 午前10時～
場所：『ふたばワールド2018 in なみえ』会場内

(浪江町地域スポーツセンター
(双葉郡浪江町権現堂字下馬洗田5-2))

内容：双葉地域の農林業の復興状況をお知らせするとともに、イベントブース内で配布するクイズに正解した方全員(1,500名)に、双葉郡で生産された「お米」や「花」、「タマネギ」をプレゼントする、空くじなしの大抽選会を開催します。

※「お米(300名)」、「花(200名)」、「タマネギ(1,000名・1t分)」を用意します!!



「平成29年度ふたばワールド(富岡町)での開催状況」

(企画部)



福島県相双農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒975-0031 福島県南相馬市原町区錦町一丁目 30 番地
Tel : 0244-26-1153 Fax : 0244-26-1181
<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36260a/>
E-mail kikaku.af06@pref.fukushima.lg.jp